

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆新時代の経営構造＝協働（理念）×価値（発想）×システム（DX）

企業で働く人には、就給社員、就職社員、就社社員がいる。日本企業の社員は、すべて就社社員から産業生活を始める。働く環境や自分の生き方や都合で、この3つの社員に分化する。この3つに分類される社員・要員の存在価値に差が出るようでは、企業は存続が危うくなる。さらに、現代は企業や働く人の都合などでの就業形態が多様化・複合化し始めている。また、雇用形態も多様化している。人事制度の複雑化に振り回され、社員・要員はやる気を低下させ、出来る人の活躍を阻害している。出来る人とそうでない人、あるいはやる気のある人そうでない人とでは成果の出方は倍違いとなるにも関わらず、手が回っていない。働く人にとっても働かせる側にとってもやるせない状況にある。

帰属意識と協働力を如何に創れるかが現代企業の最大課題といっていだらう。パワーある企業理念に創りかえ、企業理念を起点にしたベクトル合わせの仕組みを再改革すべきである。高賃金で引き付ける事は表面的には意味があってもカンフル剤にしかならない。

また、これらの要員に如何に活躍してもらうかがますます重要になって来ている。就給社員や就職社員が活躍できるか否かは就社社員の出来具合で決まる。就社社員の確保・育成が企業の存在を決める時代であることを再確認したい。

◆手作りIoT研究会への挑戦

物づくりではどうしても現場に蒸発工数が出る。また現場要員の素人化が求められ、現場の知恵がなくなって来て、品質管理をはじめ日本の物づくりの素晴らしさ（現場の知恵）が失われようとしている。

現代企業では、生産技術が経営戦略の重要な一つになる。自社の物づくりの良さを残し、人的良さを最大限に活かすためにはIoT（成長型）などを始めとしたICTの取り組み（手づくりのDX化）が重要になる。すなわち、オンリーワンの企業づくりに取り組むことである。

BSOは、全くの素人レベルから取り組むIoT同好会を4月から「手づくりIoT研究会」として開始する。

◆人間性回帰の地方都市を創る

子育て世代は地方と都会とで多重生活する。メディカルクリニックモール、生活財提供商店街、行き来の便利な交通（リニアモーターカー、新幹線、航空）、通信（5G）などの整備された地方を本宅とし、都会では仮住まいをする。これらのインフラは国の財政で行う。国が出来ないところは地方自治体が行う。地方自治体もできないところは「ふるさと納税」で行う。

子供達は里山・里海で遊べ、受験戦争（誰でも入学できるが、レベルに到達しないと卒業できない制度などにしてはどうか）から解放される。親の愛情の下、人間性・社会性などを自然環境の中で学べる地方が創る。

◆経営構造革新の
実現プログラムを創ろう

- 1) 合目的的ベクトル合わせの課題の明確化
- 2) TSSMによる全員参画の協働考働実践企業づくり
- 3) 進捗を自己管理する役割分担チャートの活用
- 4) 小集団活動の相互進捗検討会

◆自分は自分で護る

「信じる者は救われる」は日本の精神文化である。しかし、自分以外、現代では信じるモノがない。役所で「個人情報を守ります」と言われても、それを鵜呑みに出来ないことが多発している。国が潰れても、わが社は存在する。わが社と共存共栄出来る人材・人財を目指そう。

◆「自由と平等」の再考時代

現在のウクライナ戦争は、やはりプーチンの狂気の沙汰といふべきことなのだろう。この300年で世界の人口は10倍増加した。この超過密の現代社会では、いままでの概念では説明、理解出来ないことが起こるのは必定であろう。

人間が一番大切にしなければならない「自由と平等」という基本まで戻って再考しなければならない時代にあるのではないだろうか。

「自由」は無制限に求めて良いものではない。犠牲者を作らず、「許される自由とは何か」を考えたい。

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動（受託事業・企画事業・出版事業）のタイムリーな情報をいち早く多くの方々を知っていただく為に発信しております。（お問い合わせはshienkikaku@bso.co.jpまで）